



## 待望の初滑べり!



### 新型降雪機導入し スキー場オープン 大北一番乗り

議長新年のあいさつ……………②

補正予算・報告事案等を審議……………③～④

委員会活動報告／総務委員会・経済委員会・コロナ対策特別委員会……………⑤

白馬山麓事務組合・視察・議員表彰……………⑥

村政を問う・一般質問……………⑦～⑬

わたしのひとこと (松沢 彩子さん・相沢 歩さん) ……………⑭

# 積極的なコロナ対策を

議長 北村 利幸



新年明けましておめでとうございます。

村民の皆様には、輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、村議会に、ご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

12月からの降雪で、順調な、冬季観光シーズンを迎えることができました。

適度な降雪で、多くのスキーヤーでにぎわうことを願っております。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により地球規模の自粛生活・経済低迷となり、厳しい1年となりま

した。

当村でも観光関連事業をはじめ多くの産業が影響を受けており、議会といたしましても、国・県の対策事業に加えて村単事業を要望し村当局とともに、経済対策を進めてまいりました。

国政では、安倍政権が退陣し、菅内閣が誕生し、公明党との連立与党が継続となりました。

感染拡大により低迷する地方経済再生対策を実施し、景気回復することを期待しております。

村民の長年の悲願である「地域高規格道路松糸道路」は糸魚川インター～山本地区の工事が進み、安曇野北インターのAルート案・大町市西側ルート案が発表されました。早期にルートが決定し着工すること

を願っております。

また、通地籍の国道改良工事が順調に進んでおり、雨中バイパス工事も2号トンネルが貫通し設備工事を進めており、同時に1号トンネルも掘削工事が進んでおり早期完成を願っております。

さて、村では高齢者が安心して住み続けることができることを目的とした、複合拠点施設建設工事が順調に進み春には竣工となります。

また、村民の皆様が元気

に安心・安全に暮らせるための、ソフト事業や都市からの移住促進、若者の定住促進など、議会での議論を深めてまいりたいと存じます。

議会では、議会改革特別委員会とコロナ対策特別委員会を設置し、議論を深め皆様とともに住みよい小谷村をめざし取り組んでまいります。

皆様にとりまして本年が輝かしい年となりますよう祈念し、年頭のあいさつといたします。



## 表紙写真 説明

新たな人工降雪機導入（村補助金活用）して大北10スキー場内今季一番のスキー場開きをしたとの情報を得て、寒波が来る前の12月11日（金）に柵池高原スキー場を視察しました。

柵池ゴンドラの終点からハンの木ゲレンデ上部（ハンの木高速ヘアリフト沿い）の約900mのコースは、最新のスノーマシンにより約25cmの雪が整備されていて、初雪を楽しむスキーヤーやスノーボーダーでいっぱい。ヘアリフトは平均すると搬器に一人は乗っているほどの賑わい。関係者によると前夜の冷え込みで降雪機を本格的に作動し始め、能力の半分ほどで「雪造り」をしたとのこと。

雪に触れるとより新雪に近く一同感心しました。

（広報委員長）

# 補正予算・報告事案等を審議

## 11月臨時会 ◇ 専決処分報告

件名	内容	審議結果
令和2年度小谷村一般会計補正予算（第8号）	700万円追加 総額57億6,800万円	承認 (全員賛成)
令和2年度小谷村一般会計補正予算（第9号）	歳入歳出増減無し 総額57億6,800万円	承認 (全員賛成)

## ◇ 村長提出議案

件名	内容	審議結果
小谷村一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	期末手当 0.05月引下げ（令和2年度から）	可決 (全員賛成)
小谷村特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	期末手当 0.05月引下げ（令和2年度から）	可決 (全員賛成)
小谷村議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	期末手当 0.05月引下げ（令和2年度から）	可決 (全員賛成)
小谷村会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	期末手当 0.05月引下げ（令和3年度から）	可決 (全員賛成)

## 12月定例会 ◇ 村長提出議案

件名	内容	審議結果
小谷村議会議員及び小谷村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について	選挙運動用自動車の使用、ビラの作成、ポスターの作成の公費負担に関し必要事項を定める。	可決 (全員賛成)
小谷村固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例について	法改正に伴い、引用する法律名等を修正する。	可決 (全員賛成)
小谷村税条例等の一部を改正する条例について	地方税法等の改正に伴う条例改正	可決 (全員賛成)
小谷村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	国民健康保険税の減額に係る所得基準の引き上げ。	可決 (全員賛成)
小谷村国民健康保険条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例について	新型コロナウイルス感染症に係る傷病手当金規定の期間延長。	可決 (全員賛成)
小谷村農山村体験交流施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	移住おためし住宅（土倉）の利用方法を、農山村体験交流施設に変更することによる条例改正。	可決 (全員賛成)
小谷村農山村体験交流滞在型施設の設置及び管理に関する条例の制定について	移住おためし住宅（深原）の利用方法を、農山村体験交流滞在型施設に変更することによる条例制定。	可決 (全員賛成)
小谷村移住おためし住宅の設置及び管理に関する条例を廃止する条例について	移住おためし住宅（土倉・深原）の利用方法を変更することに伴い、当条例に規定する施設が無くなったことから当条例を廃止する。	可決 (全員賛成)
令和2年度小谷村一般会計補正予算（第10号）	8,800万円減額 総額56億8,000万円	可決 (全員賛成)
令和2年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	240万円追加 総額3億5,890万円	可決 (全員賛成)

令和2年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第3号）	70万円追加 総額9,980万円	可決 (全員賛成)
令和2年度小谷村簡易水道事業会計補正予算（第2号）	収益的収入及び支出 収入 310万円追加 総額1億8,097万円 支出 310万円追加 総額1億8,186万円	可決 (全員賛成)
令和2年度小谷村下水道事業会計補正予算（第2号）	収益的収入及び支出 支出 増減無し 総額2億3,290万円 資本的収入および支出 収入 増減無し 総額1億1,330万円	可決 (全員賛成)
北アルプス広域連合規約の変更について	施設に白馬リサイクルセンターを追加	可決 (全員賛成)
村道路線の認定について（長崎上線）	村道長崎上線の認定	可決 (全員賛成)
令和2年度小谷村一般会計補正予算（第11号）	増減無し 総額58億8,000万円	可決 (全員賛成)
工事変更請負契約の締結について（小谷村営農等倉庫建築工事）	増額 431万円 総額 7,966万円	可決 (全員賛成)

## ◇ 請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
総務委員会	県道中土奉納停車場線中央橋改良促進に伴う請願書	提出者 土谷地区促進同盟会 会長 丸山 宣夫 紹介議員 太田 武彦	採択 (全員賛成)
経済委員会	国土交通省告示第98号の履行に関する陳情書	提出者 一般社団法人長野県建築士事務所協会 会長 土屋 長命 一般社団法人長野県建築士事務所協会大北支部 支部長 吉川 馨	採択 (全員賛成)
経済委員会	最低制限価格の設定に関する陳情書	提出者 一般社団法人長野県建築士事務所協会 会長 土屋 長命 一般社団法人長野県建築士事務所協会大北支部 支部長 吉川 馨	採択 (全員賛成)
経済委員会	耐震診断・耐震改修に関する陳情書	提出者 一般社団法人長野県建築士事務所協会 会長 土屋 長命 一般社団法人長野県建築士事務所協会大北支部 支部長 吉川 馨	採択 (全員賛成)

## ◇ 議員発議

件名	審議結果
国土強靱化対策の推進を求める意見書（案）について	可決 (全員賛成)
県道奉納中土停車場線中央橋及びJ R石原下踏切の拡幅改良促進を求める意見書（案）について	可決 (全員賛成)
新型コロナウイルス感染症対策に関する要望書（案）について	可決 (全員賛成)

# 委員会活動報告

## 総務委員会

当委員会と小中学校長・教頭・園長・教育委員懇談会が11月10日に行われました。初めに、小・中学校を訪問して、コロナ禍でも元気に学んでいる授業の様子が確認できました。



小学校音楽会練習

懇談会では、全体に今年度はコロナ禍でも工夫して授業等をしていることが報告されました。  
教育委員会・今後の学年別児童・生徒数の一覧表か

ら令和2年10月時の生徒数58、児童数115、園児数61で、住民基本台帳から推測される令和8年は生徒数55、児童数104。

中学校・23名いる2学年の3密回避のため教室を社会科教室、多目的室へ転用。保護者、地元の方々のご理解と協力を得て、参観日、総合発表会を実施。

小学校・各教科でつまづいたり、困り感を持ったりする児童の増加に伴い、一人ひとりに寄り添った丁寧な指導の充実を図るため連学年にT.T(ティーム ティーチング)を配置し、臨機応変に対応。

保育園・令和3年4月より「認定こども園 小谷村保育園」に名称変更予定で、現在、県に申請中。また、0歳児(1歳誕生日の翌月から)の受け入れ予定。  
(総務委員長)

## 経済委員会



中学校授業

旧南小谷小学校グラウンドに建設した大型機械を収納する営農等倉庫を視察しました。農機具の維持管理が容易になりました。  
(経済委員長)



全景

## コロナ対策特別委員会



内部

今定例会最終日に議員発議して村長に、要望書を提出しました。

### (要望書)

全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大、さらには年末年始を控えてGOTOトラベル停止により観光産業全体の収入が激減している緊急事態において、観光経済のほか、村の財政教育、医療福祉等への影響が懸念される。感染症に対する村民の意識を高め、安心と安全を確保し、観光産

業を支えることが大切と考える。よって引き続き早急に村独自の追加支援対策等の展開をしていただくよう議会として再度強く求めます。

1 感染の疑いがある観光客等の検査への搬送の際に付添人が必要とされる場合、および本人を含む村内交通弱者の検査等への搬送手段を確保されたい。

2 職員・来訪者の安全確保のため、役場庁舎入口への自動体温計の設置、空気清浄機の設置等、感染防止対策をなされたい。

3 GOTOトラベル停止の影響について、村内全体の実態を調査把握してきめ細かな支援策をなされたい。

4 感染拡大により、家庭内や職場、学校等の感染が懸念される。防止対策の徹底についてより一層の周知を図られたい。

(委員長 太田 武彦)

## 白馬山麓事務組合

白馬山麓事務組合

白馬高校支援・先進地視察

◎島根県 吉賀町 吉賀高等学校

学校 サクラマス交流センター

―学生宿舎(町運営)

・サクラマスファミリー

・身元引受人制度

・連携型中高一貫教育



(町外生徒1名に対し、町在住1家族と交流)

吉賀高等学校 サクラマス交流センター

◎島根県 飯南町 飯南高等学校 月根尾寮(高校運営)

・人的支援高校魅力化コー

◆ デイネーター2名配置

・校務配置学校により作成

・町営塾「飯南町学習支援館」

・保小中高一貫教育の推進

・ホストファミリー制度

・地域行事の参加 家庭への宿泊

・要約学習



飯南高等学校 月根尾寮

◎広島県 神石高原町 油木高等学校 寄宿舎(高校運営)

・公設学習塾

・海外研修事業支援

・各種検定受験補助

・町外生徒バス定期券購入

◆ 補助

・こども医療費支援給付制

度

・医療従事者育成奨励金制

度



油木高等学校 寄宿舎

◆ 今後の白馬高校運営の課題として県教育委員会との連携強化、地方創生交付金の有効利用、地元のみならずとの交流等があげられる。(組合議員 猪股 充拡)

## 令和2年度 自治功勞表彰

長野県町村議会議長会定期総会において、多年にわ

たり町村議会議員として地

方自治の進展のために尽力

された功績により会長の下

平豊久氏から下記の4名が

表彰の栄に浴されました。

今後、益々の活躍を期待し

ています。

町村議会議員特別表彰

(18年以上在職者)

北村 利幸

横澤かつ子

町村議会議員表彰

(10年以上在職者)

太田 武彦

曾根原恵子



# 村政を問う

令和2年12月定例会一般質問

質問通告書 締切12月2日

一般質問は、定例議会において質問通告書を提出し、1時間の制限で執行機関に疑問点や所信を問います。CATVで公開されています。今回も新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、本会議場（定員30名）は15名とさせていただき、傍聴者は8名でした。

〈質問項目〉【順番は質問通告書提出順で、質問議員各自でページ作成をしています。】

8日（火） 午前10時～12時・午後1時～3時10分

- |         |    |   |         |
|---------|----|---|---------|
| 1、曾根原恵子 | 議員 | ① 2021年度予算 内需と家計を経済軸に   | (8ページ)  |
| 2、深澤 英喜 | 議員 | ① チームラボ★学ぶ！未来の遊園地in小谷村開催について<br>② 小谷村スキー場緊急対策補助金交付について<br>③ 令和2年度新型コロナウイルス対策補助金について | (9ページ)  |
| 3、猪股 充拡 | 議員 | ① 観光地の有害鳥獣対策と共存について<br>② 地方創生SDGsを活かしたwithコロナ新生活様式について                              | (10ページ) |
| 4、宮澤 正廣 | 議員 | ① 10年後の小谷村と空き家対策問題について  | (11ページ) |
| 5、藤原 賢司 | 議員 | ① 小谷村第6次総合計画の策定にあたって<br>② 小谷の未来にののために   | (12ページ) |
| 6、吉岡 久人 | 議員 | ① 村民が知りたい村長の言動  | (13ページ) |

## 「検討する」の回答はどうなったか？

【質問に「検討する」とした回答は、1年間検討後に村長より再回答されます。】(抜粋)

### 〈質問(令和元年12月)〉

### 〈再 回 答〉

- 農作業受託事業継続と農家の採算性の再検討を…………… ◆ 令和2年12月に㈱小谷百姓七人衆が設立され、農家負担が増えないように村所有の機械の無償貸与を条件に作業料金を据え置いている。
- 効率の悪い村内農作業料金が大町と同等の金額設定は…………… ◆ 県内でも安価な料金設定のため、価格維持のため法人へ機械無償貸与して農家負担が増えないように対応する。
- 地域医療の充実と高齢者が生き生き暮らせる村づくり…………… ◆ 助産師資格者を任用し妊婦への訪問や電話相談、乳児ケアなどを実施し、リハビリ専門職については現在、条件面などを含めて交渉中。
- デジタル環境の整備は…………… ◆ Wi-Fi整備は令和元年度に梅池観光センター、梅池会館にNTTフレッツ光回線によるアクセスポイント増設を行い、2年度は梅池駐車場、里見バス停、JR南小谷駅への公衆無線LAN整備補助金の申請協議を行い、3年度には梅池自然園周辺と雨飾高原キャンプ場へ公衆Wi-Fi整備を行い、山岳観光地での防災強化を検討中。その他はこの12月から通信速度を改善すべくインフォバレーと協議を進め3年4月から民営化となるケーブルテレビ運営者と村内光ケーブル網を活用したサービスの向上を目指す。
- ふるさと応援寄付金は…………… ◆ 令和2年度から企業版ふるさと納税を実施するため5月に総務省への申請を行い、7月下旬に認定された。現在はホームページの作成や企業とのマッチングを行い、現在1社との協議を進めている。

# 21年度予算

## 内需と家計を経済軸に



曾根原恵子 議員

### 経営難の打開策は

**問** 観光地映像や現地情報  
の発信・新たな商  
品開発・来訪歴のある客と  
のつながり維持に対する施  
策は。

**答** 村長 バーチャルツ  
アーが注目されている。

主要個所に情報網の整備  
を行う。令和3年度に公設  
民営化運営でケーブルTV  
とインターネット環境を改  
善し情報化を進める。

村と観光連盟の連携で  
バーチャル観光を展開する。

**問** 地球温暖化対策、ゼ  
ロカーボン・エネ

ギーの地産地消実現の来年  
予算と事業内容は。

**答** 村長 村内全体の  
二酸化炭素排出量は

21・591tで産業部門  
16・5%、業務43・4%、  
家庭26・5%、運輸13・6  
%。観光業による排出量が  
多くを占めている。役場庁  
内の排出量は192・8t、  
電力が72・3%を占めてい  
る。

地産地消エネの実現に向  
け森林資源を活用した取  
り組みを進めるため、チツ  
プボイラーを導入した場合  
の試算をしている。二酸化  
炭素の削減、持続可能な経  
済活動に寄与する策を講じ  
る。ゼロカーボン目標達成  
の第一歩と考えている。

**問** 村民意識の高揚を  
進めるためにも現在の  
立ち位置（基礎データ）、

目標数値を示すことが必要  
では。

目標数値を示すことが必要  
では。

**答** 村長 年間の森林整  
備の面積といったわ  
かりやすい数字で達成度を  
伝え村全体の活動になると  
期待する。予算については  
森林整備基金を活用する。

ハード事業の実施の前に村  
の行動計画から進めたい。

**問** 子育て支援策で新た  
な計画と予算規模は。

**答** 教育長 現在実施し  
ている妊産婦支援は

手厚いため好評だ。予算は  
410万円。通院費助成や  
相談支援を拡充したので来  
年度の新しい事業はない。



役場の和室を借りてリトミック

**問** 国民健康保険の「子  
供の均等割り」計算  
の改善を求める。

**答** 村長 減免を実施し  
ている自治体は全国  
27市町ある。長野県の税担  
当者から「税制度面で問題  
がある」との指摘を受けた  
と聞く。コロナによる税制  
への影響があり減免実施は  
困難だ。

**問** 国保の運営も基金の  
積み立ても順調だ。

**答** 村民全体で健康増進に取り  
組み医療費を抑える努力を  
した結果だ。減免しても運  
営できるのでは。

**問** 住民福祉課長 減  
免を実施している自  
治体があることに驚いてい  
る。調査、聞き取りをする。

**答** 基金は加入者のも  
の。収入のない子供  
に課せられる税は国保だ  
け。運営協議会に村長から  
提案したらどうか。

**答** 村長 提案する考え  
はない。

**問** 村職員の正規非正規  
職員の格差是正を。  
職員組合の要求にどう答え  
たか。

**答** 村長 フルタイム職  
員の期末手当支給月  
数を現行と同様にするよう  
要求があった。新たに退職  
手当が受給対象になること  
から正規職員と同等にする  
と回答した。

**問** 「雇用契約満了によ  
る毎年の不安」、「制  
度が変わって月の収入額が  
減少した」と非正規の皆さ  
んが要望事項をもって村長  
と意見交換をしたと聞いて  
いるが。

**答** 村長 格差是正には  
いち早く取り組むべ  
きものと思っている。

**問** 正規非正規に関係  
なく職員はチームで  
働いている。正規職員にと  
っても非正規職員の待遇は  
自分たちの問題と言ってい  
る。弱い立場の存在を認識  
しながら、職員を守ってほ  
しい。



# チームラボ★学ぶ！未来の遊園地in小谷村開催について



深澤 英喜 議員

収入は。

**答** 村長 入場料収入で、約2000万円を見込んでいます。

大人1200円、子供（中学生以下）600円の入場料として概ね25000人の入場を目標に計画している。

## 小谷村スキー場緊急対策補助金交付について

**問** 小谷村のスキー場、営業事業者6社に対して1社5000万円の予算を予定しているが、現在のスキー場営業事業者は5社と思うが村の考えは。

**答** 村長 令和2年度11月1日をもって、1社の営業権譲渡が行われた。ただし施設の所有に関しては従前のままである。今回のスキー場緊急対策補助金については、村内スキー場で索道事業者を営む事業者に対し、令和2年度4月1日以降の機械や設備

の維持管理経費等について、上限5000万円として補助し、索道事業者を支援することにより、村内経済の維持回復を図ることが目的であり、従前からの6社を補助対象事業者としている。

**問** 予算は。

**答** 村長 9月の議会で2000万円の予算

について承認いただいたが、事業者からの本事業への要望が多かったため、10月に、1000万円11月に、3000万円を追加補正し、総額6000万円。

の予算となっている。

**問** 補助金率の高い理由は。

**答** 村長 国及び県の補助率は8/10〜9/10であったため、村の事業も補助率を高くした。

**問** 審査基準は。

**答** 村長 交付要綱により、事業者・実施内容を確認し、さらに申込事業がどの事業区分・補助率が審査した。

**問** 開催を決断した経過と、開催する理由は。

**答** 村長 経過については、母池観光協会の方から、観光庁の公募事業である「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業の提案が7月上旬にあった。さらに当該事業をチームラボ社のコンテンツを利用したイベントを希望された。村では、この要望を受け、母池観光協会長や総務課、観光振興課とも協議し、実施場所や実施時期を検討し、実施をすることを前提に補助申請を行った。

開催する理由は、スキーワンというアイテムにより、他のスキー場との差別化をすることで、小谷村のスキー場を選択し来村を促すこと、また、スキー以外の魅力の発信を最大の開催理由と考えている。

**問** 予算合計と支出内容は。

**答** 村長 事業費総額は、5000万円。支出は、

・チームラボの映像投影に係るシステムリース料。約2000万円。

・各ブースなどの設営費。約2000万円。

・広告宣伝費。

400万円。

・その他アルバイト代など運営費。

600万円。

# 観光地の有害鳥獣対策と

## 共存について



猪股 充拡 議員

**問** 今年は例年以上に熊・猪等の有害鳥獣

による被害が全国的に数多く報道され、長野県内近隣市町村でも登山やキャンプに訪れた観光客が熊に襲われたなどの被害報告があった。

人的被害だけでなく農作物や高山植物等への被害も報告され、農業・観光業を主産業とする小谷村にとつて大きな問題だと思ふ。今後の村の対応・対策を伺う。

①今現在、村農林係と地元猟友会で連携し対策を講じていると思ふが現在の状況と課題は。

②有害鳥獣を有効利用し

ていく方法としてジビエ料理があるがジビエ料理を使った観光振興の考えは。

**答** 村長 ①熊の目撃情報、農作物被害が連

日のように寄せられ対応に苦慮している。県の保護管理計画による制限が有り許可なく捕獲することができないが県・猟友会との連携を密にとり敏速な捕獲許可や檻の設置ができるよう対応している。被害の多い鳥獣として猿・猪が挙げられるが、こちらも年々個体数の増加や生息域が拡大している傾向にあり、農地を防御するには電柵の設置が必須となり、電柵導入に対する補助制度を設けているところである。今年予算が年度途中で不足となつてしまったため来年度以降はより広域で取り組む団体・集

団に対して優先するなど対策を考えている。

母池自然園においても猪の痕跡が見られ高山植物保護の観点からも注視しなくてはならないと考える。鳥獣捕獲には多大な労力が必要であり、なかなか捕獲数の増加に繋がる良策がないのが現実であり、防除と駆除を効率的に行える必要がありGPS等を利用しどこに有害鳥獣がいるか把握する、あるいは大町市で導入実績のある遠隔操作タイプの大型捕獲檻等、ICT活用による防除・駆除対策についてが今後の課題と捉えている。高齢化等により狩猟者の確保が難しくなっていることから、猟友会員の増加についても課題ととらえ今後も対応策を考えている。

②第5次総合計画にもあるように駆除した獣肉のジビエ料理などへの活用を検討を行っている。消費に対する村内外の需要また施設面で何が必要か研究し進めていきたい。現時点では、

豚熱の影響もあり猪の食肉販売ができない自家消費のみ可能で他営業施設への販売はできない。そのような事情も加味しながら課題解決に向けて協議していく。

**問** 地方創生SDGsをいかしたwithコロナ新生活様式について。

新型コロナウイルス感染症

の第3波の影響は年明けまで継続することが予想されているwithコロナ、今までは全く違った生活様式を改めてしつかり受け入れ感染対策を強化することが求められる。受け入れる姿勢の一つとして2016国連において採択されたSDGsの17の達成目標に加え感染対策強化を進めることが社会的アピールに繋がると思ふし、小谷村のブランド力の向上になり今後自治体として地方創生の一環としても取り組むべきと考えが村の考えを伺う。

**答** 村長 自治体行政に

おいては地方創生SDGsの取り組みが始まっ

ており今年度策定予定の小谷村第6次総合計画においてもSDGsとの関連付けがされることとなっている。

新型コロナウイルス感染症対策は長期的視点に基づき枠組みであるSDGsの達成に向けた取組と連携して進めることが効果的であると考える。地方創生の充実と進化に繋がる大きなチャンスと考える。たとえばゴール1「貧困をなくそう」では持続性の高い雇用対策の強化や新たなビジネスモデルへの支援。リモートワークの活用による地域雇用の創出などが考えられる。ゴール11「住み続けられる街づくりを」住民が持続可能な生活環境、居住環境の構築、移住者が住みやすい環境整備・管理体制を構築・地域へとけこみやすい地域づくりなどが考えられる。どのような取組がSDGsとの関連付けできるかを見極め地方創生SDGsに取り組んでいきたいと考える。

# 10年後の小谷村と

## 空き家対策について



宮澤 正廣 議員

**問** 10年後の小谷村にどのような構想を立てるか。

**答** 村長 高齢化社会の進行、人口減少により「空き家」は増加の一途であることが全国的にも報告されている。現在小谷村の75歳以上の独居老人世帯が約170世帯あり、持ち家の多い小谷村を考えると、10年後7割以上、約1200件程度が空き家となる可能性も考えられる。空き家が増加することを想定した上で構想を立てなければならぬ状況であることは間違いないが、まず

は空き家の所有者との関わり、情報交換が何よりも大切であり、所有者と連絡を取り何らかの措置と対応を行政と一緒に考えてもらうことが必要と考えられる。地域の皆様からの情報提供や、場合によっては仲介も不可欠であり、利活用するなど各空き家で所有者の状況により適切な判断と指示をしていく。

**問** 現在の空き家状況は。

**答** 村長 8月の集落要望時に各地区の連絡員から聞き取った空き家の件数は188件で、母池・白馬乗鞍・千国地区の聞き取りはしていない数字である。住民税の家屋敷課税は令和2年で228件に上る。家屋敷課税とは、村外住民登録者が村内に家屋

を所有する場合の課税制度で、約250件を超えるものと想定している。

**問** 景観等近隣や地域に悪影響を及ぼすことの懸念は。

**答** 村長 家屋を適正管理しなければ廃屋となり当然ながら近隣に影響を及ぼす。行政としても、適正な管理指示ができないことも要因である。時間が経過すればするほど対応に苦慮する。動物の住処となるなど、人が寄りつけない

環境になっていくのも現状である。迷惑を及ぼす廃屋の対応を優先していくことが行政の使命と考える。

**問** 所有者、相続者がわかるうちに売買・解体を進める解決策は。

**答** 村長 所有者や相続者については、個人情報もあり民間人が容易に調べることができないため、

行政が空き家対策を行うべきである。行政として所有者の情報を整理して忠実な業務ができるように努力する。

**問** 空き家放置の定期的な点検が必要だが。

**答** 村長 行政として小谷村空き家の適正管理に関する条例など関係法令に従い、適正な勧告をする。勧告を行う上では、放棄家屋の定期的な点検についても必要な業務として認識し、実施していく。合わせて地域住民からの適正管理かどうかの情報提供も必要であり、行政と地域及び

住民一体となって空き家対策を進めて環境を整える。

**問** 一本化に向けた組織改革はできたのか。

**答** 村長 9月議会で申し上げたとおり、次年度に向けて空き家対応の組織改革を計画している。

現在、それぞれの担当部署へ次年度構想案について示しているところで、今後、各部署の意見を聞いた上で、最も効率のよく対応できる係若しくは人選をしていかなければと考えている。



早い解体を



使用可能な住宅

# 小谷村第6次総合計画の

## 策定にあたって



藤原 賢司 議員

**問** 小谷村第6次総合計画の策定の対応は遅れていないか。

**答** 村長 当初6月から第5次総合計画の証作業の実施予定が、コロナ対策により見合わせた。事務の進め方では、変更が生じているが、第1回振興計画審議会の開催は、予定どおり開催できたので、計画策定に当たって、今後とも予定に沿って策定できることを願っている。

**問** 村長の諮問に「小谷村に住み続ける住民にとつて」と、あえて特定した理由はなにか。

**答** 村長 第6次総合計画は「住民にとつての村づくり」を進める基本計画であり、一番「意識」して審議いただいたという思いから「住み続ける住民」といった文言にした。

**問** 総合計画は、10年間の「基本構想」5年間の「基本計画」、3年間のローリング方式で毎年策定される「実施計画」から構成されるが、計画に関わる村長のグランドデザインは。

**答** 村長 「基本構想」には、第一に人口減少のシミュレーションラインを緩め、2030年SDGs達成の項目が関連付けられ、2050年のカーボンオフの実現の答申が反映されてくることを期待している。文化と伝統が息つき里山の風景が広がる中で「さり

げなく、デジタルな里山小谷」を目指していきたい。その実現には、「村民の皆さんと作り上げていく」ことを基本において実施していく、それが私のグランドデザインだ。

### 小谷村の未来について

**問** 「森林セラピー基地おたり」として、豊かな森林（森）づくりが必須と思うが村長の考えは。

**答** 村長 県の補助事業で行う間伐は7割伐採もしくは皆伐レベルの森林整備なら所有者への配当が可能だから、整備箇所をモデル的に決め、整備の効果をみながら、全村集落周辺の環境整備を行うべきと考えている。

**問** 基金に積み立てている森林環境譲与税を積極的に活用する考えは。

**答** 村長 里山を中心とした施策を重点に、森林環境贈与税を活用した事業計画を早急に策定したいと考えている。

**問** 小谷村への移住定住希望者の受け入れ態勢の対応など、村長としてのグランドデザインは。

**答** 村長 地域コミュニティを大事にし、農地・里山を地域住民と活用していくソフト面の強化を行うことで、小谷村の自然環境にプラスした農林業の伝統を含め政策を推奨していき、核となる事業として移住定住政策を進めたい。

**問** 農業を希望する若者が増えているが、遊休農地、空き家が点在する小谷村は、これら農業希望者の受け入れ体制は整っているとと思うが、これらも含め、将来の小谷村の農業の在り方についての考えは。

**答** 村長 守る農業とチャレンジする農業の2本を事業推進し、農地を守りつつ、また農業に目を向けさせる魅力ある山村生活を演出できる体制を考え、市民農園法や特定農地貸付制度も利用し、今ある

景観を守りながら小谷村の魅力を引き出す体制を築こうと考えている。

**問** コロナ禍を経て急速に第4次産業革命と

称されるデジタル革命が学校教育の場でも例外なく進んでいくと思うが、これらに対する子どもたちへのサポート、将来ビジョンも含めて考えは。

**答** 教育長 受け身ではなく、自ら能動的に学ぶ授業や学習が求められる中で、ICTはそれを助ける道具の一つであると注目されているが、ICT教育の導入は教員側、生徒側ともにメリット、デメリットについて指摘されているが、総じて教育の質の向上や時代が求める新しい学びの実現に有効なものとして期待されているので、村内の情報通信設備の向上が図れば、都市部と同等同様に質の高い教育が受けられる可能性を視野に、今後積極的な活用を考えていきたい。

# 村民が知りたい村長の言動



吉岡 久人 議員

**問** 村長の考えを伺う。

①議会の議決を経て設立した「株式会社おたりアセット」の解散を議会の議決を得ることなく、令和元年6月5日定例会のあいさつの中で表明し実行した。

②議会の議決を得て予算を計上すること及び庁内の十分な検討をすることなく、令和元年6月14日、予算の裏付けなないまま、金4,200万円を支払う合意書に村長印を自ら押印し締結を行った。その後、6月27日の臨時議会で、当初予算にない違約金4,200万円を含む7,700万円の補正予算を議会に上程したが、

賛成多数で否決された。議会ひいては村民不在の行為と思うが。

③令和元年9月18日、「株式会社おたりアセット」の解散に関わる登記を議会の理解と承認を得ることなく申請し、清算人を選任し登記は完了した。独断的行為と考えるが。

④本年6月定例会中に金品等を渡した病気見舞いの奥さんに同伴した行為は、「村長としての自覚の欠如」として、議員から辞職勧告発議され議決されたが、その後これらに関する詳細説明等一切なされていない。新型コロナウイルス感染症対応中で入院患者の接触は極力控えるべきと思うが。

**答**

**村長** 一括して答える。村が「株式会社おたりアセット」を設立するにあたり、当時の理事者が議会とどのような議論をし、議員が村民にどこまで

説明を尽くして意見を反映させていたのかについては、当時の村の状況からみると村民の間に広く浸透しきれていなかっただけではないかと感じている。議員の質問は、議会の議決を経て設立した「株式会社おたりアセット」ということだが、おそらく、設立するための予算に対する議決ということだと考える。会社の設立や解散に関すること自体は議会の議決を諮らなければならぬ案件ではないと理解している。

また、私が昨年6月5日に「株式会社おたりアセット」を解散の方向性で進めるとした旨の表明は、まず昨年の村長選において、「おたりアセットの件については検証して正す」として



中村 義明 村長

たことに対して村民から付託を受けたものと考えている。村長就任後に代表取締役との面談において代表取締役から清算するとの見解が示されたことから、それまで村を二分するような事態になっていたことに終止符を打つ私の判断として方向性を示したものである。合意書の締結は、代表取締役の作成した合意書の中に、違約金については議会の承認を得るものとする内容があったこと、並びに話し合いの場に当時の議長、副議長の同席があり、自分の考えとして議会の理解を得られるものと思っていたので合意書締結する判断をした。

また、今議会冒頭のあいさつのとおり、強い覚悟を持って村政運営にあたるが、村全体がチーム小谷となるには、議員各位の力強い後押しが必要となる。今後ともよろしく願います。

もので独断的にしたものではない。

次に6月の臨時議会でも補正予算を上程し、賛成少数で否決された案件は、補正予算計上にあたって庁内議案審査を経て全員協議会等で説明した内容が否決された内容であり、議会及び村民が不在という認識は持っていない。

以後、会社については清算に向けて進めていきたいところだが、個人に対する訴訟が起これば、会社の債権についても関係するところとなっているため、現在は進んでいない現状である。

最後の④は当時説明してあり、再説明することはない。

# わたしのひまわり

## 民謡とともに

集落支援員  
土谷ふれあい隊

松沢 彩子

小谷に嫁いで12年、小谷民謡保存会にお世話になって11年。当時の会長さんの山崎充さんが義父の同級生だった縁で、当時7ヶ月の娘と見学に行かせていただいたのがきっかけで踊りを続けています。

最初は娘に小谷の民謡に触れさせたい、地元の唄で踊って欲しいなど憧れましたが、まずは私が覚えなければと思い通うことに決めました。通い始めた頃は大勢メンバーがいて、私は小さな子供がいたのでステージに上がることはなかったのですが、今では人数が減り若手もどんどんステージに上がらざるをえない時代の変化があります。幸せなことに小谷村の民謡に興味



本年文化祭中止でCATV収録後のメンバー

を持つて楽しんでくれる20代の若い女性二人に恵まれ、引き続き活気ある会となっております。

ある時、子供連れで迷惑かなと思ってお休みしていると「来ればいいんだ。」と言って毎週電話をくれた会長さん。私はここにいていいんだと涙が出ました。子供ともども可愛がって仲間に入れていただき大きな

心で受け入れてくださいました。そのことが子育てや小谷での生活の支えになり今では愉しみとなっております。

今年はコロナ禍で練習や披露する場も限られ寂しい年でした。時代にあつた繋がりが方々でこれからも大切にしていきたいと思えます。

### 相沢 歩 (中士)

小谷村に住んで二回目の冬がやって来ました。今年には私にとって初めての事が多くありました。中でも夏に子供が産まれた事は大きな出来事でした。さまざまな制限の中での出産でしたが、娘は元気に産まれてきてくれました。

もう一つは、田んぼを始めたことです。自分の食べる物は、出来るだけ自分で作りたくて、念願だった米作りを、結婚を機に旦那さんの力を借り、始めることが出来ました。初心者が見

様見真似の作業でしたが、稲は力強く元気に育ちしっかり穂を付けてくれました。

収穫前の美しい稲穂が好きで、娘の名前に「穂」を入れました。

これから、子育てや世の中の情勢など思いもよらない事が沢山あると思います。稲穂のように力強く前向きに家族で進んで行けたらと思います。



## 編集後記

今シーズンには恵みの雪！一安心であることに間違いないが、コロナ禍の中でどのような年で、これから何を考えていく必要があるか課題は尽きない。

地域情報誌に「POW」の活動が紹介され、知人の青年が登場していた。スノーアクティビティを愛する人々が仲間を増やし、行動し、仕組みを変える目的。気候変動以外にも自然や社会が抱える課題が沢山あると言う。楽しげでカッコ良い。彼らに未来を託してみよう。いやいや、それは傲慢な言い方だ。「あなたたちが頼りだ。お願いします」であろう。行政も議会も呼応した働きが求められている。

若い世代にも愛読していただけるよう「魅力的な紙面」を目指します。

(記) 曾根原 恵子